

平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名	児童・中高校生およびフリーター・ニートなど若年者に対する 自然環境・園芸に関わる職業体験講座		
法人名	学校法人 伊東学園		
学校名	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校		
代表者	理事長 伊東 政信	担当者 連絡先	山田 正彦 TEL 0721-24-5147

1. 事業の概要

各教育機関に赴き、児童・園児、中高校生などに対し花や緑に関する体験型実習で説明・作業等を行い、自然環境・園芸に関わる職業教育を実施することにより、園芸関連職業の魅力を伝える。併せてフリーターなどに対する啓蒙講座を開催する。また、参加者にアンケート調査を実施し、園芸に関わる職業意識等興味喚起を促す。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

今年度の目的である、自然環境・園芸に関わる職業教育を実施し、児童など低年齢層の園芸に対する興味の喚起ならびに普通科・実業高等学校等での動態を加え、調査結果を補完するとの観点から、児童・園児についての興味喚起については花と緑について明確に好意的な受け入れがなされた。また普通科高等学校については、園芸に対しての興味をほとんど認知することなく、作業・説明終了後には、花や緑に関わる仕事への興味が全体の6割以上が興味を持ったとの回答からおおいに目的が達せられ、調査の補完が滞りなく行われた。

②事業により得られた成果

初めての試みとして児童・園児の花と緑の体験型実習および説明・作業を通じて、少なからず児童期における感性の練磨ならびに園芸の作業を通じた仕事としての認識については成し遂げられた。また、小中学生についても、花と緑の体験実習を行うことにより、これまでに園芸に対して興味のなかった生徒についても、職業選択の幅を広げる契機としても有効であろうことが証明された。高校生については、花と緑を通じて園芸の職業への興味喚起につながるものが立証された。

③今後の活用

職業体験を実施することにより、児童・園児をはじめ小中学生・高校生・フリーター等に園芸に興味を抱かせ、将来の職業の方向性として幅を広げられたことから考察すると、今後も継続的な実施が必要であると考えられる。今回のデータを基にすべての年齢層に受け入れられる可能性のある、園芸職業体験に重点を置き、これからも積極的に取り組むこととしたい。

④次年度以降における課題・展開

次年度以降も積極的に取り組むことは明確ではあるが、短期による成果で持続性に疑問が残ることが唯一懸念される。但し、花と緑の持つ魅力についてはいつの時代にも普遍のものであり、園芸に対する興味の情報発信元としての確立が急務であると考えられる。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

- 第1回 平成18年 9月28日(木) 私立柏原高等学校 2年生 32名
園芸装飾、植栽に関わる園芸職業体験と園芸に関わる職業説明を実施。
園芸に対する興味の有無については、興味なしと普通が90%以上を占める。園芸の仕事に対する理解はほぼ100%の学生から理解を得た。また、園芸に関わる職業の興味については60%以上の生徒が興味を持ったと回答し、体験前と正反対の回答がみられた。
- 第2回 平成18年10月24日(火) 私立上宮太子中学 2年生 62名
植物の育成と園芸装飾に関わる園芸職業体験と園芸の職業について説明する。
もともと花と緑に興味対象のあった生徒、園芸を職業としてしても良いと考えている生徒は全体の65%を占めていた。実習後に園芸が興味の対象となり得ると回答した生徒は80%に至り、園芸の親しみ易さの強調された内容となった。
- 第3回 平成18年11月22日(水) 市立平城東中学校 1年生 24名
フラワーアレンジ体験実習と植木鉢づくりから始める園芸装飾体験実習と園芸の職業説明を実施。
花や緑に対する仕事に興味を持っていると100%の生徒が回答しているが、園芸自体に興味をもっていたかの質問に対しては、興味があったと回答した生徒は70%にとどまっており、仕事に対しての使命感・義務感が感じられる。また、実習後には、園芸自体の興味についても100%の生徒が興味対象との回答にいたった。
- 第4回 平成18年11月28日(火) 市立新堂幼稚園 75名
園芸装飾体験実習と植栽の作業と花と緑の楽しみ方について説明。
花や緑を好きと回答した児童は85%おり、実際に育てた経験のある児童は90%にもものぼり、花や緑について増えて欲しい、もっと知りたいと考えている児童についても95%以上にのぼるという結果になった。
児童期については全体的に園芸の興味が高いことが推測される。
- 第5回 平成18年11月28日(火) 町立山田小学校 4年生 61名
園芸装飾体験実習と植栽の作業と花と緑の楽しみ方について説明。
花や緑を好きと回答した児童は80%おり、実際に育てた経験のある児童についても80%いるが、増えて欲しい育ててみたいと考えている児童については60%台と少々低調な結果となった。今回の実習作業が校舎周辺の植栽が中心となっていることから、少々体力的に厳しかったと考えられる。今後の体験に活かす事としたい。
- 第6回 平成18年12月7日(木) 市立金剛東保育園 45名
クリスマスリース装飾体験実習と植栽の作業と花と緑の楽しみ方について説明。
花や緑を好きと回答した児童は95%おり、実際に育てた経験のある児童についても65%いるが、増えて欲しいもっと知りたいと考えている児童については70~80%と少々低調な結果となった。住宅街に位置し園芸の根付きにくい点もあり、児童期にあっても園芸に対しての興味は生活環境に左右されることが大きいとの結果となった。
- 第7回 平成19年 2月2日(金) 市立藤陽中学校 1年生 6名
園芸装飾実習と植栽作業と園芸の職業について説明。
花や緑に対する仕事に興味を持っていると100%の生徒が回答しているが、園芸自体に興味をもっていたかの質問に対しても、興味があったと回答した生徒についても100%の回答があり、植物の育成経験についても全員が経験あり、将来の園芸業界人の育成に努めた内容となった。
- 第8回 平成19年3月8日(木) 園芸に関わる職業体験講習会 5名
フラワーアレンジ体験実習とグラス鉢を利用した園芸装飾体験実習と園芸の職業説明を実施。
今回の目的である園芸の職業に対する興味喚起については100%の結果が得られた。職業として意識し、園芸業界への就職希望者が80%と高水準が得られ、残りの方についても現在は考えられないと回答し、今後の就職についても否定的ではなかった。次回開催に向けての足がかりと成り得る結果となった。

②その他

誰にでも楽しめる園芸本来の特色を活かし、また、説明だけでは伝わらない園芸の魅力を体験型実習とすることにより、今回の職業体験では体力的に消耗の激しい作業は極力控え、園芸の本来の魅力である、誰にでも楽しくできることを意図としながら、園芸の職業の厳しさについても極力伝える工夫をした。